

ご挨拶



「誰もが幸せを感じ、安心安全な社会」、それがユニバーサル社会です。千葉県アイパートナー協会は、そんな社会の実現を期して昨年7月に設立されました。ユニバーサル社会は、社会の全ての構成員が平等に人権尊重される社会です。したがって、私たちの協会では、障害の有無や年齢、性別を問わず会員としての権利を持つことができます。あらゆる立場の会員が、ともに考えともに協力してユニバーサル社会の実現に貢献していくこととしています。是非、本大会に参加された皆さんも、私たちと一緒に誰もが暮らしやすいそんな社会を作り上げる仲間に入ってください。私たちの思いが広がる1日になればと願っています。多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

千葉県アイパートナー協会会長 伊藤 和男

バンジョー

青木 研

1978年千葉県流山市出身。

7歳頃、蓄音機やそこから流れる戦前音楽に親しみ、バンジョーのサウンドに特に強い魅力を感じる。

13歳で初めて懂れていたバンジョーを手にしてから、ディキシーランドジャズで使われる4本弦のバンジョーをほぼ独学でマスターする。

1995年前後、高校在学中より都内ライブハウスやホテルパーティーなどで演奏活動をスタート。イベント、テーマパーク、内外ジャズフェスティバル、バンジョーフェスティバル、ラジオ、TV等で演奏。2010年、アメリカ・サンノゼのバンジョー大会にヘッドライナーとして、2011年、FIGA主催の全米バンジョーコンヴェンションに、2013年はハンガリーで開催されたジャズフェスティバルにソリストとして招聘される。

バンジョー主体の演奏の他、数多くのディキシーランド／スイングジャズ等多種のステージを通し、若手No.1プレイヤーとして楽しいステージングと華麗なテクニックで観客を魅了している。米JAZZ BANJO MAGAZINE、ALL FLETS、オランダBN／DESTEM誌、ジャズ批評社「ジャズ批評」JAZZLIFE誌、等で特集記事が組まれる。バンジョー奏法は、ディキシーランドジャズのスタイルはもちろん、当初からバンジョーソロ系の、エディー・ピーバディ、ハリー・リーサー、ペリーベクテルをはじめ、あらゆる奏者からの影響を受ける。日本では数少ない、ソリストとして演奏することのできるバンジョー奏者。

演奏の一部をご視聴いただけます。

<https://i-partner.jp/event/20200412/music/aoki.mp3>



シンガーソングライター 板橋かずゆき

3歳のころ、視力が弱いことに両親が気づき(緑内障)6歳で親元を離れ、青森県立盲学校に入学。徐々に視力を失い不安定な日々を送る中、友人からの誘いでバンド活動を始め(ギター/キーボード/ヴォーカルを担当)、作詞作曲を手がける。

卒業後、病院勤務のかたわらライブハウスで歌い始め、様々なミュージシャンと共演。10年間勤めた病院を退職し、シンガーソングライターとして本格的に活動し始める。2005年、第2回ゴールドコンサートで準グランプリにあたる歌唱賞を受賞。これを機に、年間100本を超えるライブや講演の依頼が殺到。

「あきらめない心、強く生きること、そして、分かち合うところ…」

これらの想いをテーマに講演を行い、その活動は全国規模

現在、RABラジオ「耳の新聞」、FMむつをキーステーションに「板橋かずゆきのミュージック・ベジタブル」のパーソナリティーとして全国四局ネットで放送中。

2017年2月22日発売、演歌歌手川中美幸さんのCDシングル「津軽さくら物語」で作曲家としてメジャーデビュー。2019年10月2日発売、演歌歌手川中美幸さんのCD アルバム「おかあちゃんへ～少しサヨナラ～」では作詞・作曲の「少しサヨナラ」が収録され作詞家としてもメジャーデビュー。

歌唱の一部をご視聴いただけます。

<https://i-partner.jp/event/20200412/music/itabashi.mp3>

